

平成 30 年度「自然を活用した幼児期の運動プログラム」事業報告書

MORI ASOBI

にこっ
遊びつたのしー

遊ぶことが生きるチカラ！
ドキドキ
ワクワク が、森の中にはある

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taietsu Youth Friendship Center



はじめに

我が国では、少子高齢化、人口減少による地域の産業やコミュニティの維持をはじめ、国際化による多文化との共存、AIやロボットといった技術革新の進展など、これまでに経験したことがない課題や社会の変化が予想されています。

このため、教育の指針である学習指導要領などが、これまでの学校教育の実践や蓄積を活かしつつ、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成するため、特に、幼稚園教育要領においては、「健康な心と体」や、「自立心」、「協同性」等、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を明確化するなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して改訂されました。

こうした中、国立青少年教育振興機構は、青少年教育のナショナルセンターとして、自然体験や社会体験などの体験活動を通して青少年の自立を組織の使命として掲げ、様々な取組を進めてきました。

近年の研究では、子供たち、とりわけ、幼少期からの体験活動がコミュニケーション力や自己肯定感など、社会を生き抜くため

に必要な資質・能力の獲得に役立つことが明らかになっており、地域や学校等との連携を一層深め、「幼児期に身に付けたい36の基本的な動き」などのプログラムの研究・開発やその普及に取り組んでいます。

国立大雪青少年交流の家でも、平成28年度から「たびうさぎファミリー」を実施し、幼児とその保護者を対象とした体験プログラムの研究・開発に取り組み、この「MOR I ASOBI」は、その中間まとめとして作成しました。

写真絵本風に取りまとめていますので、幼児教育関係者の参考にしていただきますとともに、家庭において親子で一緒に御覧いただき、自然の中での体験の楽しさや大事さを共有していただき、当所の御利用はもとより、地域での取組に御活用いただけると幸いです。

国立大雪青少年交流の家

所長 渡部 徹

だるまさんが
ころんだっ



幼児期の子供たちに育みたい11のこと

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿【10のこと】

平成30年度から実施されている「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に記載されているとおり、小学校入学時までには次の10の項目について育てていくことが求められています。

- ・自立心
- ・健康な心と体
- ・協同性
- ・道徳性・規範意識の芽生え
- ・社会生活との関わり
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり・生命尊重
- ・数量や図形・標識や文字などへの関心・感覚
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな完成と表現

【遊んで身に付く36の基本的な動き】

国立青少年教育振興機構では、幼児が友達と楽しく体を動かして遊ぶことは、運動能力の向上だけでなく、意欲や気力、対人関係、社会性や認知的能力を育むきっかけとなるとの考えから、「遊んで身に付く36の基本的な動き」を整理し、遊びの中で自然にこれらの動きが獲得できるような運動プログラムの開発を進めています。

また、幼児の発達段階に合わせて、幼児自身が遊び方を選ぶとともに、自然の中で自由な発想で遊ぶことができるように留意した環境づくりを進めています。

体を移動する動き			体のバランスをとる動き		

物を操作する動き					

【大雪「森のおそび場」の特徴】

国立大雪青少年交流の家では、これから「幼児期の子供たちに育みたい11のこと」を具現化するために、次のようなポイントを重視し、本プログラム及び室内プログラム（別冊）を開発しました。

プログラムのポイント

- ①自然環境を活かした遊び場づくり
森での遊びに失敗はない。再挑戦できる。
- ②安全・安心な環境づくり
幼児の発達段階に応じて、安全に挑戦できる場づくり
- ③様々な遊びができる場づくり
個々の興味に応じた多様な遊びができる。
友達と… 様々な動きの獲得… 挑戦心…

大雪「森のおそび場」プログラム

これらのポイントをふまえて、次の8つのプログラムを整備しています。

- | | |
|-----------|----------|
| ①丸太とび | ②ロープ渡り |
| ③ロープのぼり | ④ターザンロープ |
| ⑤スパイダーネット | ⑥ハイジブランコ |
| ⑦ストライダー | ⑧ツリーハウス |



今後も、子供の成長や季節に応じた、おそび場の整備を進め、子供たちの「遊びたい」を満足させつつ、発達段階に合わせた育みたい力を育てていける環境づくりを進めていきます。



次のページは「森のおそび場」マップです

「森のあそび場」インフォメーション

場所

国立大雪青少年交流の家の敷地内にあります。

(美瑛町の「青い池」から約4km)

遊べる時期

6月上旬～10月中旬

金額

無料です。

ただし、日帰りの場合は事務室で受付をお願いします。

利用期間中はいつでもご利用いただけます。

木 林

のあそび場マップ

ロープ渡り

スパイダーネット

ターザンロープ

ハイジブラッコ

ロープ登り

ツリーハウス

ストライダーコース

丸太とび

※遊具の位置は実際とは多少異なります。

するするする

するするううう
なにしてるのかな?

きのうえにも
どうぶつが いるね!
どんどん、
うえにのぼっていく!
きに のぼるのが
とくいなんだね。



ロープ登り

プログラムの概要

- 木の枝からロープをぶら下げ、登り棒の要領で木登りをします。
- 足を乗せる結び目をくつか作り、登りやすくしてあげるものと、一番下に輪を作りブランコのようにつまみかきをするものと、くつかのバリエーションをつくり、子供が自分なりの遊び方を見つけてくれるようにしています。

遊び例

- ロープをつかんで登ったりします。
- ブランコのように揺れたり跳んだりします。

ポイント

- ロープに結び目や輪をつくり、子供の工夫を刺激する仕掛けを作りました。
- バリエーションがあることで、難易度が変わり、子供の挑戦する心を養えます。



ぶるぶる



ぶるぶる

ぶるぶる ぶるぶる
なにしてるのかな?
あれ?
あんなところに
どうぶつがいる
こわくないのかな?

おちないかな?

ロープ渡り

プログラムの概要

- 木の間にロープを張り、綱渡りの要領で子供が渡ります。
- 足を乗せるロープだけをなく、手を持てる高さにもロープを張っているのを、手でロープをつかみ、支えとしながら渡ったりして渡れるため、挑戦しやすくなっています。

遊び例

- 下のロープに乗って、上のロープを手でつかんで渡ります。
- 下のロープに乗って、上のロープにつかまらず渡ります。
- みんなと一緒にロープに乗って上下運動します。

ポイント

- ロープをつかんで歩けるため、挑戦しやすいです。
- 木から木へと地面につかずに渡っていくので、地面につかなくて行けるかなと、子供の発想を活かした遊びが展開できます。
- フィールドにロープが張ってあることを事前指導しておきます。



ぴょん

ぴょん

ぴょん

ぴょん ぴょん ぴょん

なにしてるのかな?

とぶのが だいすき なんだね

丸太とび

プログラムの概要

○丸太を土に埋め、飛び石のように配置してあり、子供たちは、その上を跳んだり、細い丸太の上を歩いたりします。

遊び例

○丸太の上を飛び石の要領で跳んで渡ります。

○細い丸太の上を平均台の要領で渡って遊びます。

○丸太を蹴って遊びます。

ポイント

○丸太を不規則に埋めることで、日常になじ動きをするように工夫しています。

○細い丸太を無造作に置いておくことで、子供の自由な発想で遊びを展開する材料になります。

○細い丸太は平均台のようにも使えるし、動かすこともできます。



ふわふわ

ふわふわ

ふわふわ

ふわふわ ふわふわ

なにしてるのかな？

あれれ？

あみのうえに なにかいる

ふわふわ いるね

スパイダーネット



ふわふわ



ふわふわ



プログラムの概要

- 木に囲まれたスペースにネットを張り、ネットの上を移動したり、寝そべったりします。
- ネットの上で動くだけで、バランスをとる動きが必要となり、バランス感覚や体感を鍛えることにつながります。

遊び例

- ネットの上に乗って、ハイハイしながら移動します。
- ネット上で、身体を自然にゆだね、揺れを楽しみます。
- ネットから降りる時にジャンプします。
- ネット上をゴロゴロ転がります。

ポイント

- 自分たちで登れるように手作りの階段を設置し、主体的な遊びを促します。
- 仲間と一緒に揺らし、揺らめを楽しみます。

つかむ



ストライダーコース

プログラムの概要

○「ストライダー」というペダルのない自転車に乗ることで、自分の足でこぐ楽しさを感じる。
 ○起伏あるコースのため、楽しみながら体力向上を図ることができます。

○ストライダーを5台に限定し、置き場所も設置することで、友達と交代で遊んだり、自分で片付けをしたりする社会性を育みます。

遊び例

○ストライダーコースで友達と競争します。
 ○森の中を笹がぶつからないように走ります。

ポイント

○自然な起伏があり、笹の間を通るなど、森の中をダイナミックに活用したストライダーコースを設定し、ストライダーに乗る意欲を高めます。



びゅーん
 びゅーん

びゅーん びゅーん
 なにしてるのかな?
 すごい はやい はやい
 あしが とても はやいんだね

ツリーハウス

がしっ

プログラムの概要

○ツリーハウスに上がってみたい挑戦心をくすぐります。

○縄ばしごを設置してしているため、ある程度の体力がないと上に行けない仕組みになっています。

○上から森を一望できます。

遊び例

○上から森を見て、自然の雄大さを感じます。
 ○縄ばしごを上げる方法を工夫します。

ポイント

○縄ばしごにより、少し難しくなっており、安全を判断できる。発達段階に達している子しか上がらないように工夫しています。

○上からは広場が一望できるため、幼児の憧れの場所として上げるために挑戦する工夫をしています。



がしっ

がしっ がしっ
 なにしてるのかな?
 きのかげに ひっそりと
 いるね
 ちいさくて かわいい!

がしっ

あーあああー

あーあああー

ターザンロープ

プログラムの概要

○ロープ上部に滑車をつけ、木から木へターザンのように移動します。

遊び例

○ターザンロープにつかまって移動します。

ポイント

○ロープにつかまって回りながら移動します。



あーあああー あーあああー

なにしてるのかな？

はやしのおくにいるね

かかっているのかな

はずかしがりやなんだね



ゆらゆら ゆらゆら
なにしてるのかな？

あれれ？

おくに きもちよく とんでいるね
たかい たかい

ハイジブランコ

プログラムの概要

- 木の枝からブランコをつり上げること、自然を感じながらブランコ遊びができます。
- ブランコがあるところの土地が高くなっており、ここ先にかけて、傾斜があるため、飛び出すと非常に高いところを滑り降りる感覚が得られます。

遊び例

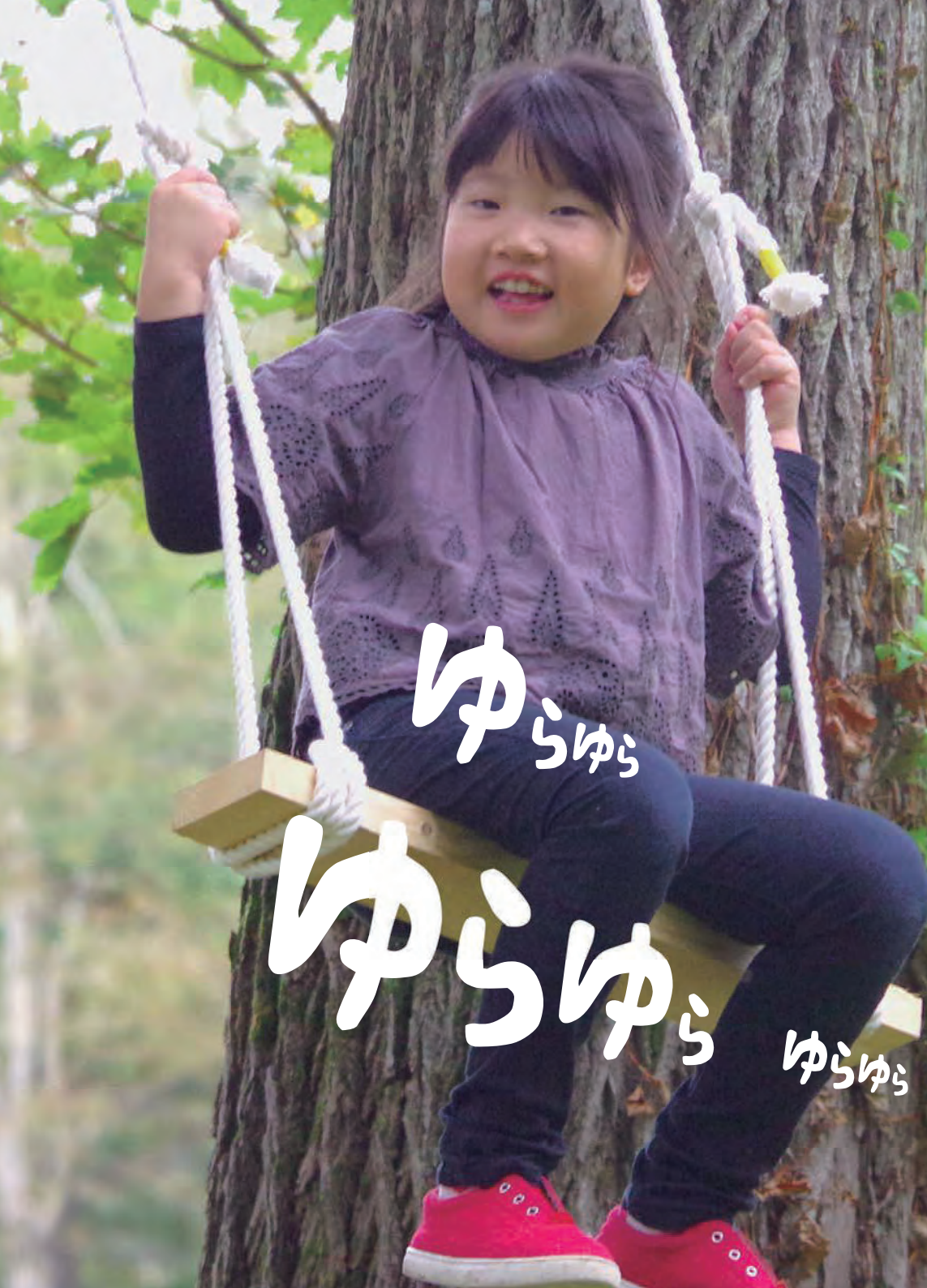
- 高さを感じられる、自然の中でブランコ遊びができます。
- ブランコに乗ってぐるぐる回ること、ロープがねじれ、それを戻す力を利用して回転する遊びができます。

ポイント

- 公園の遊具と違って、自然を感じながら、高さを体験できます。



ゆらゆら
ゆらゆら
ゆらゆら



⚠️ きをつけよう!

楽しく、安全に活動するために危険な動物の事、活動中のポイントをおさえて活動しましょう!

ハチ



©nora

保護者の皆様「危険動物：ハチ編」

北海道において刺される被害は特に8~9月に集中しています。特に、オオスズメバチ・キイロスズメバチは攻撃性が強く、刺された部分は激痛をともなって腫れあがり、場合によっては呼吸困難になったり、ショック死する場合があります。

刺されないようにするために

長袖・長ズボンで活動しましょう。ハチは黒いものに反応しますので、白系や明るい服装を身に付け、帽子をかぶりましょう。香水やヘアスプレーなども蜂を刺激するので、できるだけ付けないようします。

ハチが飛び回っていたら近くに巣がある可能性があります。ハチは下が見えにくいので、身を低くしてその場から静かに立ち去りましょう。手やタオルを振り回して追い払うのは絶対にやめましょう! ハチは動くものに敏感なので危険です。

ダニ



©nora

保護者の皆様「危険動物：ダニ編」

大きさ 2~3 ミリ程度で笹やがなどに生息しています。近くを通る人間などにとりつき、皮膚に食い込み血を吸います。最初はチクリとするくらいで気づきにくいですが、3~4 日間以上も吸い続け大きなイボのように腫れます。血液の栄養だけを吸い取り、不要物を人間の体内に戻しますが、この時ウイルス・細菌なども体内に送り込まれることがあるので危険です。

刺されないようにするために

長袖・長ズボンで活動しましょう。首回りなどもタオルで隠すなどすると効果的です。活動後は、服についていないか、グループでお互いに確認しましょう。

保護者の皆様「危険な動物」

ハチやダニの他にも、危険な動物がいます。

ヘビ

中には、毒をもったヘビもいます。発見したら、慌てず、刺激しないようにその場から立ち去りましょう。

キツネ

キツネの体内にはエキノコックスと言われる寄生虫が生息しています。外のもを触った手で持ったものを食べるなどすると、感染する可能性があります。

ヒグマ

基本的には夜行性です。森の中に、フンや大きな足跡を見つけたら、すぐに職員にお知らせください。



©nora



キツネ

©kippo



ヒグマ

©kippo

保護者の皆様「外で遊ぶ時のポイント」

外で活動する時の服装

安全に活動するためにも、外で遊ぶための服装は重要です。

夏場は暑いかもしれませんが、ケガを予防するためや、虫刺され、ダニから身を守るために、長袖、長ズボンが良いです。



©kippo

熱中症予防 水分補給はこまめに

熱中症は夏場の屋外で起きると思いがちですが、真夏・屋外に限らず、高温や多湿のもとで起こります。水分やミネラルをこまめにとりながら、活動しましょう。

! そんな症状が出たら要注意!

「めまい、立ちくらみ、大量の冷や汗」

..... 涼しい場所へ移動、安静、水分補給

「顔があおい、頭痛、吐き気、身体がだるい」

..... 涼しい場所へ移動、安静、腕や足の付け根を冷やす、水分と塩分の補給



おわりに

「森のあそび場」づくりは、北海道における幼児教育を一層豊かにするため、○幼児の「主体的な遊び」を実現する「場」とはどのようなものなのか（遊び場の内容や条件）

○どのように整備するのか（遊び場の整備の仕方）
について、国立大雪青少年交流の家からのひとつの御提案となっております。

当所を御利用いただき、森の遊び場を満喫していただけるとありがたいのですが、私たちの一番の願いは、こうした遊びの環境が全道の至る所に整えられていくことです。もちろん、予算をかけて公園を整備するということではありません。地域住民が幼児期における自然の中で、主体的な遊びの重要性に対する理解を深めながら、子供たちのために当事者意識をもって、地域の手でつくりあげていくことです。

今回は、美瑛町の青葉幼稚園のおやじの会の皆さんに御協力いただき、次のような段階を経て整備を進めました。

第1段階
幼児教育に対する理解を深める段階
幼児教育に対する学びの場を設定

第2段階
直接的な受益者の中から賛同者を探し、協力を得る段階

P T Aやおやじの会
第3段階
地域の方々と一緒にあそび環境づくりを進める段階

7～9月の週末
第4段階
地域の方々が活用できるあそび場として機能する段階

当所の事業や園外学習での活用

国立大雪青少年交流の家では、次年度以降も引き続き、多くの地域の方々とともにさらなるあそび場整備を進めていきたいと考えています。これらの段階が相互に作用しあって、地域の幼児教育に対する理解が深まるとともに、幼児教育

関係者や教育行政関係者だけで物事を進めるのではなく、多くの方々を巻き込みながら、一緒に「子供たちのために」汗を流すことで、

第5段階
地域全体で子供の遊びを見守る風土ができる段階

につながるかと考えております。

各地域において、「子供のための遊びの環境」が、地域の方々の手によって整えられ、地域の幼児教育に対する理解が深まることを期待するとともに、大雪での森のあそび場体験を楽しんでいただけることを願っています。

担当 主任企画指導専門職 国枝 知

平成30年度 「自然を活用した幼児期の運動プログラム」事業報告書

平成31年1月 発行

発行 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
〒071-0235 北海道上川郡美瑛町字白金
Tel 0166-94-3121

協力 学校法人 美瑛青葉学園あまば幼稚園
同 おやじの会

デザイン 企画指導専門職付 石川 恵理

イラスト 学生サポーター 野村 華純
法人ボランティア 吉保 七美

○本書で紹介している体験活動の中は、必ず保護者と一緒に活動を行ってください。
○当該情報につき読者の皆様は損害を被った場合でも、当交流の家は一切責任を負えません。読者ご自身の責任においてこれらの情報を御活用ください。
○無断転載・複製を禁じます。ご使用の際には、発行元まで連絡ください。